

民族舞踊文化



No.29
THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE
一般財団法人 黛民族舞踊文化財団
〒107-0052 東京都港区赤坂 3-10-3 黛ビル 4F TEL 03-3583-3633
http://www.mayuzumi.or.jp FAX 03-3583-3639

2017年5月10日



撮影：田中文太郎

12月「コラボデ黛 in 黛スタジオ vol.2」より ややこ踊り

ごあいさつ

一般財団法人 黛民族舞踊文化財団
理事長 加戸 守行

昨年から今年にかけて、米国ではトランプ旋風が吹きまくり、年が明けると日本のテレビニュースでも毎日のようにトランプ米大統領の顔を拝見するようになりました。貿易・経済・安全保障の分野ではハラハラドキドキの方が多いただろうと想像に難くありませんが、こと文化・スポーツの分野では、当面世は事もしなやかなのかなと思ったりしています。

ところで、黛民族舞踊団は、昨年8月に韓国での公演に参加するとともに、12月には「日本民族舞踊の流れ～大陸から大和へ～」と題してモダンダンスとの共演を黛スタジオで開催し、好評を博しました。

当財団は、創業者黛節子先生の貴重な遺産を活用しながら活動を続けておりますが、1階のテナントの又貸しの又貸しによるトラブルで、ここ2年ほど、家賃収入が激減しておりますため、大変困惑しております。事態の解決により早期に展望を開きたいと考えておりますので、今暫くのご辛抱を賜りたいと思います。

皆様方の変わらぬ御理解・ご支援をお願い致します

7月黛民族舞踊団 韓国公演(ソウル・コソン)の報告

日本大学教授 丸茂 美恵子

黛民族舞踊団(団長：黛琉美)は“The 22nd ChangMu Performing Arts Festival”(第22回創舞国際芸術フェスティバル)の招聘を受け、2016年7月25日から28日まで韓国を訪問した。主催者は韓国舞踊界の第一人者・金梅子先生で往年、舞踊団の創立者・黛節子先生と深い親交があられたことからこの度実現の運びとなった。筆者は黛民族舞踊文化財団の加戸守行理事長の代理として同行した。よって、ここに報告をさせていただく。

公演日程は、

- ・25日(月)19時開演 “韓・中・日文化交流会 & レセプション” 於：ソウル・ポストシアター



写真1 花笠踊り



写真2 ホーハイ節・津軽じょんがら節



写真3 巫女舞



写真4 花田植



写真5 豊年舞

・27日(水)20時開演 “真夏の夜、舞踊と共にするコソソ芸術祝祭” 於：コソソ(高城)・海辺特設会場



写真6 ホーハイ節・津軽じょんがら節



写真7 豊年舞



写真8 コソソ・野外特設会場全景

の二回公演で、当舞踊団の上演演目は次の通りであった。(解説は公演プログラムを参考)

「花笠踊り」

山形地方に伝わる代表的民謡のリズムにアレンジを加え、花笠をクルクル返しながら華やかに踊る踊り。

「ホーハイ節・津軽じょんがら節」

青森県津軽地方に伝わる、「ホーハイ」という囃子詞を特徴とする民謡と津軽三味線の伴奏による手足の扱い方が特殊な踊り。

「祝い舞(巫女舞*、花田植、豊年舞)」

豊かな稔りを祝い祈る踊りは舞踊のエネルギーの原点とも言え、その豊年の喜びを歌い上げた踊り。

(*ソウル公演のみ)



写真9 津軽じょんがら節ワークショップ

ソウル滞在中、同徳女子大学のユン・スミ先生からワークショップのご依頼があり、26日午前中に同大
学校公演芸術大学舞踊学科で当舞踊団員による
「津軽じょんがら節」のワークショップとユン先生の学
生たちによる「基本のサルプリ」「三鼓舞」の披露が
あった。



写真 10 基本のサルブリ



写真 11 ワークショップ全景 同徳女子大学校

さて、筆者は当韓国公演に随行中、節子先生のご遺志、「…私は踊りが好きだったのです。しかしそのうちに、いわゆる日本舞踊だけではあきたらなくなりました。これでいいのか？ どうしたら生きた踊りが踊れるのか？ (略) 民俗芸能の持つ発散度の高さ、体の使い方から表現するテクニックの面白さ、意表をつく表現、私はすっかり魅せられ民俗芸能の勉強に突っ走りました。私は民俗芸能を素材とした民族舞踊家になろうとその時決意したのです。」(『民族舞踊文化』No.1より)を幾度となく心のなかで反芻した。じつに節子先生のシャープな振付や衣裳センスは日本の民俗舞踊本来の土臭さやたくましさ、そして情緒性を超えたもので、アジア・ダンスと渡り合えるパワフルさ、モダンさ、奇抜さが特徴的で日本の民族舞踊として昇華されている。直線的な身体ライン(写真1)、弓なりに反った身体ライン(写真2)、笠や扇の面を揃えた美しさ(写真1・4)、サッと揃えて止める扇使い(写真5・7)、大胆な色使いによる衣裳デザイン(写真1)……。なかでも節子先生が学術的な論拠に基づいた、出雲阿国に始まる女歌舞伎の「く」の字形の身体にみる足遣いはこれらのレパートリーにも活かされていたが、さらには沖縄舞踊のテクニックとの共通性へと発展した。

実際のところ、当舞踊団の団員たちは舞踊団の活動だけではなく、本職を持ち合わせている方がほとんどである。にもかかわらず、舞台監督を専門とする事務局の川崎大輔氏の主導により韓国公演の事前には赤坂区民ホールで舞台稽古を実施するなど団員の方々にはスケジュール面で時間的・労力的な負担がかかったものと思われるが、本公演ではその努力による成果が大いにみられた。筆者は、加戸理事長の代行という重責を担わせていただき、それに見合う任務は充分ではなかったのだが、希うことはただ一つ。節子先生から薫育された莉香らが引退されていく現状にあるなか、黛民族舞踊文化財団として節子先生の踊りを死守して欲しい。節子先生の舞踊のセンスは未だに色褪せず息づいていることを信じて……。



写真 1 2 前 2 列目左から 4 人目が金梅子先生、右隣が筆者 於：ポストシアターにて

11月3日(木・祝)草加ふささら祭り 黛舞踊団参加

草加ふささら祭りは、市民・文化・産業・行政が共生する「元気な草加誇れるふるさとづくり」の実現に向け、共同して取り組むイベントで、草加松原遊歩道・綾瀬川左岸広場を中心に盛大に開催しています。

この度は、インド舞踊家黒川妙子先生のご紹介のもと、草加市国際交流協会 小野塚通子さんのお力添えを頂き、草加ふささら祭りワールドバザール会場の特設ステージにて黛の踊りを中国鳳仙功舞踊団と共に披露致しました。小野塚さんは、これまで外国籍の市民との国際交流を目的とした国際交流フェスティバル「草加国際村一番地」の運営を手がけるなど、異なる文化の尊重を念頭に活動されております。

今回のプログラムでは、共通の文化として日本と中国の“茶摘み”をテーマにした作品も取り入れました。

プログラム

1. ^{ちょはつかい}猪八戒・・・鳳仙功舞踊団
2. 花笠・・・黛民族舞踊団
3. ^{しゅんこうはなつきよ}春江花月夜・・・鳳仙功舞踊団
4. ^{あいづばんだいさん}会津磐梯山・・・黛民族舞踊団
・茶摘み踊りの解説
(静岡「茶切り節」・中国「採茶舞曲」)
5. ^{さいちやぶきょく}採茶舞曲・・・鳳仙功舞踊団
6. ^{ちゃつきりぶし}茶切り節・・・黛民族舞踊団



ワールドバザール会場



会津磐梯山(黛民族舞踊団)



猪八戒(鳳仙功舞踊団)



採茶舞曲(鳳仙功舞踊団)



茶切り節(黛民族舞踊団)

12月4日(日)自主公演 コラボデ黛in黛スタジオvol.2 開催

演題 「日本民族舞踊の流れ～大陸から大和へ～」

企画・演出：黛 圭こと平出 圭

構成・振付：黛 琉美

ゲスト：木山裕子

出演：黛民族舞踊団(黛李穂、黛圭、伊藤みつ子、花柳翁麗、小山羊子、川口恵里奈、野村陽子)

スタッフ

照明：井上正美・小保内陽子 音響：牧野宏美 舞台監督：八木清市 記録撮影：田中文太郎



一、創作「光」木山裕子

今回で第2回目となる「コラボデ黛 in 黛スタジオ」。第1回目“民話の朗読”との共演に続き、今回は「日本民族舞踊の流れ～大陸から大和へ～」という壮大なテーマを黛民族舞踊団とモダンダンサー木山裕子によるコラボレーションとなりました。

第一部「舞踊の萌芽・大陸から大和へ」では、岩戸の前で踊られた天鈿女命の舞「光」から、日本舞踊初期の踊り「ややこ舞」、南蛮人との出会い、驚き、交りを表現した創作舞踊「南蛮との出会い」。奈良の民俗芸能を起源とした「しのはら踊り」、柏崎の山間に慶長年間より伝わるといわれる「烏三番」、平穏と豊穡を祝った「花田植」、そしてその豊年満作を喜ぶ祝いの踊り「祝舞」。



二、ややこ踊り



三、創作「南蛮との出会い」木山裕子・黛圭



四、しのはら踊り



五、烏三番



六、花田植



六続、祝舞



七、創作「海」木山裕子

第二部「大陸から琉球へ」では、日本に新たな文化の風を吹き込んだ海と琉球に着目。沖縄の海の美しさに思いを馳せた創作舞踊「海」。沖縄の古典舞踊の中でも格調高い踊り「上り口説」、沖縄本島を中心に伝わる民謡と朗読の旋律にのせた「ていんさぐぬ花」。恩納村の海岸「谷茶前」での漁を題材とした雑踊「谷茶前の浜」、そして最後は八重山群島の郷土民謡にのせた農踊り「黒島口説」。

古来より受け継がれて来た大和・琉球の人々の心。自然界に対する生命への〈祈り〉と〈感謝〉は、踊りをはじめとする芸能に込められてきました。

長きに渡り伝えられてきた彼らの様子を思い浮かべ、黛民族舞踊団と木山裕子のコラボレーションによって新たに掘り起こされました。

時代を越えた共演が実現されたひと時でした。



八、上り口説



九、ていんさぐぬ花



十、谷茶前の浜



十一、黒島口説



フィナーレ

自主公演 第2回 コラボデ黛 in 黛スタジオ 「日本民族舞踊の流れ～大陸から大和へ」を終えて

この自主公演企画は、平成26年秋より他の芸術・芸能との「競演・コラボレーション」をテーマに黛圭の発案によって始まりました。黛の拠点である黛アート・サロンでの開催と黛民族舞踊団員による演出・構成に重きを置き、自主性・協調性の向上に期待を寄せております。小規模公演ゆえに、作品が出来上がる過程を肌で感じることができ、スタッフとの距離も近くなることから、若手への舞台知識の養成という役割をも担っております。そのため、舞台作りの過程を忠実にを行うことを大切にしております。

今回の「日本民族舞踊の流れ～大陸から大和へ～」では、1年前から計画を立て、黛圭の企画・演出のもとモダンダンス木山裕子さんをゲストに、6ヶ月前から稽古に入りました。モダンダンスとのコラボレーションは、踊りといえども似て非なるもの。物語性を維持する上で悩むこともありましたが、黛色を保ちつつ、モダンダンスの特色を生かした選曲。また効果音や波布を用いる等、視覚的にも音楽的にも融合性のある作品へと仕上がりました。そんな中、事務局スタッフは、ポスターやプログラム等の印刷物を作成し、チラシの発送からお弁当の手配、スケジュールの管理、衣裳を倉庫から運び出す等、互いに公演に備えました。公演1週間前になると、舞台監督・照明・音響スタッフの立会いのもとリハーサルを行い、演出に沿って段取りやキッカケ、照明・音響効果の打ち合わせを詰めました。公演前の2日間で、黛アート・サロンに舞台面と客席をこしらえ照明合わせをし、最終リハーサルを終え、万全の体制でお客様を迎えることができました。

公演は昼の部・夜の部の2回行いました。60席の客席はどちらもほぼ満員となり、盛況の内に無事終えることができました。公演を終え、団員・事務局スタッフそれぞれに手応えと改善点が思い返され次回への意気込みとなった次第です。

今年も第3回「コラボデ黛in黛スタジオ」を12月に企画致しております。是非、ご覧頂ければと思います。このような活動が行えますのも、故黛節子先生の功績の賜物であり、なにより皆様のご理解、ご支援あつてのものでございます。

全ての皆様に感謝申し上げますと共に、これからも黛民族舞踊団をよろしくお願い申し上げます。

事務局 川崎大輔

12月11日(日) 世界の踊りSHOW 足立区生涯学習センター 黛民族舞踊団参加

足立区生涯学習センター主催の、「世界の踊り SHOW～アジアを間近に～」公演に参加致しました。公演は、足立区生涯学習総合施設(愛称：学びピア21)4階講堂にて、午後2時から4時半(休憩有)の7団体による16演目を披露しました。黛舞踊団は9名で参加し、花笠、上り口説、ていんさぐぬ花、鳥三番、祝舞を踊りました。

その時の様子が、足立区情報誌「ピア・ナビ」に掲載されましたので、ご紹介いたします。

世界の踊りSHOW 2016.12.11 SUN.

イベント報告



SAKARAK



ヌリッティ アンジャリ



堀 友紀子



金 春江



ソナム・ギャルモ



黛民族舞踊団

アジア舞踊7団体の伝統の踊りに圧倒されました。



鳳仙功
舞踊研究所

初っぱなは黛民族舞踊団(日本)。山形の花笠、沖縄のていんさぐぬ花、新潟の鳥三番、宮城の祝舞と各地の民族舞踊を披露。二番手はSAKARAK(カンボジア)。アンコールワット寺院で踊られた華やかで優雅な踊りが印象的。ヌリッティアンジャリ舞踊団(インド)は、タミル地方のフォークダンスや太鼓舞で元気を爆発。鳳仙功舞踊研究所(中国)の華麗な戦場での踊り・弓舞は迫力満点でした。また、西域幻影ではシルクロード石窟の幻想を描き出す。個人では、堀友紀子さんが笛の名手クリシュナを讀えた南インドのバラタナティラムを演じ、金春江さんが韓国の素晴らしい大平舞を舞う。そして、ソナムギャルモさんが、素朴で重厚なチベット民謡を歌ってくれました。

(写真・レポート広報ボランティア：松尾)

「ピア・ナビ」2017年1月号より

共演の皆様をはじめ、企画・運営を手掛けて下さいました足立区生涯学習センターの皆様、公演取材及びレポート記事を作成頂いた、広報ボランティアの松尾様に感謝申し上げます。

3月26日(日) 福祉施設にて踊りの披露

埼玉県福祉施設へ慰問に伺いました。40名程の入居者の方々と踊りのひと時を過しました。

黛舞踊団は鳥三番、さくらさくら、松島音頭、三つ面子守唄、ちゃつきり節、手古舞木遣り、南部俵積唄の7曲を披露し、その後お集まり頂いた皆さんに扇子をお渡しし、扇子遊びを行いました。

演目が進むにつれて手拍子が入るなど徐々に打ち解けることができました。最後の扇子遊びの折には、団員も皆さんの中に交わり扇子を川や波、花びらに例え、各々が思いのままに扇子を操っていました。施設長さんからは、見るだけでなく参加型の内容にお褒めの言葉を頂きました。慰問公演は、初めての試みでしたが皆様に楽しんで頂けて大変嬉しく思います。

【踊り披露の様子】



【扇子遊びの様子】



※プライバシー保護のため一部画像処理を施しております。

平成29年度 黛民族舞踊団 公演予定 (平成29年5月現在)

【自主公演】

12月9日(土)・10日(日)

「コラボ黛 in 黛スタジオ vol.3」 (仮)ピアノとのコラボレーション～月雪花～

会場：黛アート・サロン

詳細：調整中

【参加公演】

6月15日(木)

新宿芸術家協会主催公演

The Dance Gathering Vol.21 「夏目漱石を踊る」

会場：四谷区民ホール

時間：開演 18:15/ 開演 18:45

料金：[自由席]前売 4,000 円・当日 4,500 円

[予約指定席] 5,500 円



7月4日(火)

日本民俗芸能協会 創立45周年記念公演

会場：国立劇場 小ホール

詳細：調整中

平成 30 年

1月7日(日)

世界舞踊祭 2018

主催：舞踊遺産学会 国際女性スポーツ学会、国際ダンス検定協会

会場：赤坂区民ホール

時間：昼の部 / 開演 13:30・夜の部 / 開演 17:00

料金：[自由席] 2,000 円

舞踊団員募集

現在 11 名程で舞踊活動を行っております。

この度、黛民族舞踊の継承に当り新団員を募集します。

年齢・性別・経験問わず舞踊に興味のある方、稽古見学・体験からご参加下さい。黛民族舞踊団には、30 以上の演目と舞台衣裳があります。

稽古を重ね、技術を磨き一緒に舞台に立ちませんか。

皆様からの応募をお待ちしております。

稽古場：黛アート・サロン(他赤坂見附駅近辺)

稽古日時：毎週月曜 19 時から 21 時

お問合せは、03-3583-3633 黛民族舞踊文化財団事務局までお願いします。



12月「コラボデ黨 in 黛スタジオ vol.2」より
撮影：田中文太郎

一般財団法人 黛民族舞踊文化財団のあらまし

一般財団法人黛民族文化財団は、わが国伝統の民族舞踊を舞台芸術として確立し、その普及向上を図るとともに国際文化交流を行うことを目的として、昭和61年3月文部大臣から設立を許可された団体です。財団設立後は、(1)民族舞踊普及向上のための中央における公演をはじめ、地方巡回公演を活発に行ってひろく一般にこれを紹介し、また研究成果の発表会等を開催し、(2)後継者の育成を目的として民族舞踊の研究者（音楽、振付けを含む）、舞踊家のための研究会、研修会等を開催して創作活動を奨励すると共に技能の向上を図り、(3)日本各地および東南アジア諸国の民俗芸能を取材し、その研究を行うと同時に収集した資料を整理保存して一般にこれを提供し（将来は資料館を設置して一般の利用に供することを計画しています）また、(4)世界各国にはそれぞれ民族舞踊団が国家の庇護のもとに活動していますが、これらの舞踊団との交流や、東南アジア諸国の民俗芸能伝承者たちとの交流等、幅ひろい国際交流を推進して相互の連携と研鑽につとめ、(5)民族舞踊、民俗芸能に関する資料および研究成果等の出版物を刊行して、民族舞踊に対する理解を深める目的達成のため、年次を追って事業を充実していきたいと考えております。しかしながら、事業を発展充実させていくためには、何と申しましても経済的基盤を確立する必要があることを痛感いたしております。当財団が、真にわが国を代表する民族舞踊の振興団体として育ってまいりますよう、財団の事業目的を御理解くださり、各界の方々の御支援を心からお願い申しあげる次第です。つきましては、当財団には下記の通り賛助会員規程を設けておりますので、皆様にはぜひ賛助会員として、会費により御支援を賜りたく、お願い申しあげる次第です。

黛民族舞踊文化財団賛助会員規程

一、賛助会員とは、この法人の主旨目的に賛同して入会くださった個人・法人（団体）の方々の名称です。

二、会費寄付の内容は下記の通りです（但し、年間会費として扱わせていただきます。）

ア、個人の場合	個人会員	五千元以上
	特別個人会員	十万元以上
イ、法人の場合	法人（団体）会員	十万元以上
	特別法人（団体）会員	百万元以上

三、賛助会員の特典

ア、特別会員（個人・法人）

1. 年一回以上公演全の切符御一名様御招待
2. 「財団の宴」など種々の行事に御招待

イ、会員（個人・法人）

1. 年一回以上公演全の切符御一名様御招待

なお、御入会くださいます方は、賛助会員会費寄付申込書を御記入の上、御返送いただきたく存じます。

賛助会員会費寄付申込書は、当財団宛てに御請求くださいませ。領収書は銀行にお振り込み下さいました後、お送り申し上げます。

【平成28年度賛助会員（五十音順）】

石上春江 岩瀬 敬一郎 牛尾克己 奥山章雄 大野 剛 加戸守行 小松啓介 沢田祐二
諏訪春雄 徳山素琴 西角井 正大 花柳衛吉 花柳壽應 星野 紘 山崎邦昭 山下洋子

民族舞踊文化 No.29 2017年5月10日発行 発行人 加戸守行 編集 黛民族舞踊文化財団事務局
〒107-0052
東京都港区赤坂3丁目10番3号 黛ビル4階 MAYUZUMI BLD 4F, 3-10-3, AKASAKA, MINATOKU, TOKYO
一般財団法人 黛民族舞踊文化財団 THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE
TEL 03-3583-3633 FAX 03-3583-3639 ホームページ <http://www.mayuzumi.or.jp>